



# 霧島山(新燃岳)におけるテックドクターによるヘリ調査の実施(平成30年3月9日)

○平成30年3月9日、火口付近の状況を把握するため、九州地方整備局が緊急災害対策派遣ドクター(テックドクター)である鹿児島大学の地頭菌教授と共にヘリ調査を実施した。

○テックドクターの所見については以下のとおり。

- ・火口内の溶岩表面には同心円状のしわが見え、火口の北西側の水蒸気が薄くなっているところで、幅約200mにわたり溶岩が火口縁を越えているのを確認。
- ・火口縁を越えている溶岩については、盛り上がった部分は高くないため、下に落ちたとしても少量と思われる。
- ・南側斜面で以前からリル・ガリ※が発達しており、今後の雨で新規・拡大する可能性があるため注意が必要。  
※雨水等の集約した水により地表面が削られてできた細溝をリル、さらに侵食が進み沢状に発達した地形をガリと呼ぶ。



東側から撮影(3月9日15時頃)



テックドクターによる上空からの調査状況



南側斜面の状況

ガリ

リル

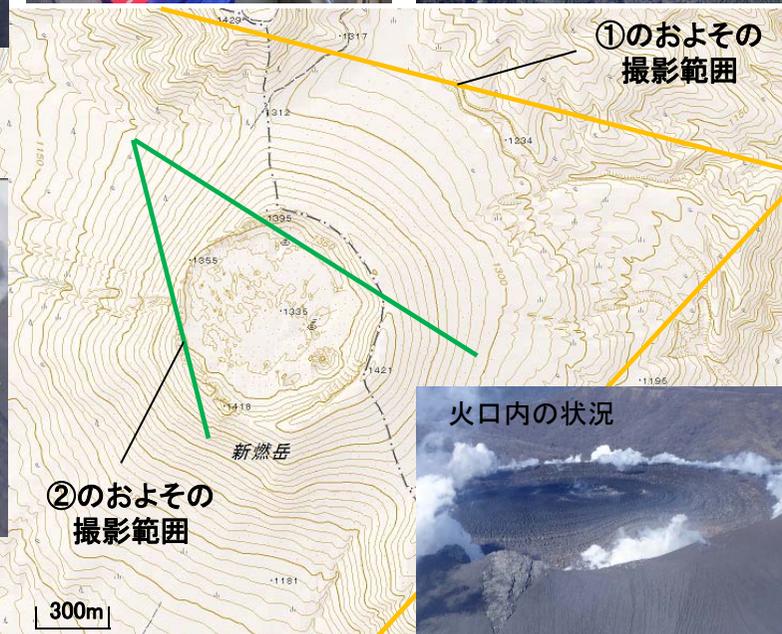


火口縁を越えた溶岩の先端部分  
上:3月9日15時頃 下:3月9日16時頃

周囲の岩の位置との比較で、15時から16時にかけての1時間で溶岩の先端はほとんど移動していないことが分かった



北西側から撮影(3月9日15時頃)



①のおよその撮影範囲

②のおよその撮影範囲



火口内の状況

300m